

平成 21 年 2 月

夜陣真司 学位論文審査要旨

主 査 井 上 貴 央
副主査 林 一 彦
同 北 野 博 也

主論文

The normal configuration and interindividual differences in intramural lymphatic vessels of the esophagus

(食道壁内リンパ管の正常構造と個体差)

(著者：夜陣真司、村上弦、竹内裕美、長谷川匡、北野博也)

平成21年 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は正常個体16体を用いて食道内リンパ管の正常構造を明確にし、リンパ管密度の個体差について検討したものである。その結果、粘膜固有層には豊富なリンパ管があり、そのほとんどが食道の縦軸方向に走行していることが明らかになり、粘膜下層に連続する輸出リンパ管を確認した。これまでに正常個体の食道におけるリンパ管密度の個体差について検討した報告はなく、悪性腫瘍や炎症のない正常個体においてもリンパ管密度には個体差が存在することを明らかにした。本論文の内容は、食道悪性腫瘍におけるリンパ節転移の様式を明らかにする上での基礎的リンパ管構造を解明したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。